

WOC（創傷・ストーマ・失禁）看護技術の有効性に関する調査（案）

1 調査の目的

WOC看護技術の技術的成熟度及びに患者アウトカムに及ぼす影響を介入研究により明らかにし、看護固有の技術を評価する基礎資料とする。

- (1) WOC看護技術が、褥瘡の治癒経過に及ぼす影響を明らかにする。
- (2) ストーマ造設術後の在院日数、ストーマ周囲の皮膚トラブルの状態及び治癒経過、退院後のQOL等との関連を明らかにする。

2 調査対象

(1) 対象医療機関

本調査においてWOC看護技術とは、一定の臨床経験に加え、創傷・ストーマ・失禁に係わる専門的知識、技術を有する看護師が提供する専門的技術と定義する。

介入群は、WOC看護技術を有する看護師が就業する医療機関200施設とし、対象群は、上記の専門的技術を有する看護師が就業していない医療機関とする。対象群は、病院要覧から消化器外科又は泌尿器科を標榜する200床以上の医療機関（約1,100施設）から抽出した医療機関とする。

なお、医療機関は、いずれも一般入院基本料I群の2以上とする。

(2) 対象患者

本調査の対象患者については、褥瘡及びストーマケアを必要とする患者とし、それぞれ以下の患者の条件をマッチングさせ、患者数を設定する。

	介入群	対照群	計
① 褥瘡	200	300	500名
② ストーマ	100	100	200名

【対象患者の条件】

平成16年10月～12月に在院する患者のうち、以下の条件に該当する患者。

① 褥瘡

- ・ 調査開始時に仙骨部または大転子部に、基本診療料の施設基準等の「褥瘡対策に関する診療計画書/褥瘡の状態の評価の「深さ」で（2）真皮までの創傷以上の褥瘡があること。
- ・ 発生から1年以上経過していない褥瘡であること。
- ・ 全身状態が安定し、定期的な褥瘡観察および褥瘡管理が可能なこと。
- ・ 20歳以上であること。

② ストーマ

- ・ 人工肛門（イレオストミー、コロストミー）又は人工膀胱造設術のため入院し、他に治療を必要とする合併症のないこと。
- ・ 20歳以上であること。

3 調査内容

(1) 病院基本情報

施設名、設置主体、病床数、看護配置、平均在院日数、職種別就業者数、診療科名、褥瘡対策チームの職種別人数、褥瘡対策未実施減算および加算の状況、WOC看護師の人数、経験年数、勤務形態等

(2) 患者調査票

調査期間は先行研究より、褥瘡ケアは3週間とし、ストーマケアは術後2週間及び退院後1～2ヶ月の外来受診時1回までとする。

① 褥瘡

患者特性：年齢、性別、体重、傷病名、褥瘡部位及び褥瘡に関する危険因子、褥瘡の状態の評価、体圧分散マットレスの使用、栄養摂取の方法、生化学データ等

看護技術：褥瘡に関わる看護技術及び及び時間、局所処置を行う職種及び使用する製品等

患者アウトカム：褥瘡の治癒経過、褥瘡ケアに係る費用（部材費・検査費）

② ストーマ

患者特性：年齢、性別、傷病名、治療方針、ストーマ造設の手術実施日、皮膚トラブルのリスク状況（糖尿病の既往、化学療法・放射線療法の有無等）、ストーマの種類、生化学データ等

看護技術：入院中のストーマケアの提供状況及び時間、術後14日までの皮膚トラブル状況、処置実施者及び処置内容

患者アウトカム：便漏れ/尿漏れ回数、ストーマ周囲の皮膚トラブルの状態、術後在院日数、退院後の外来受診時のQOL

4 調査スケジュール

平成16年10月上旬	サンプリング
10月中旬	調査票送付
平成17年 1月～2月	集計・分析
3月	調査結果報告